

2020年度 子育て支援センター（おひさまルームひじり）運営事業総括

【子育て支援センター運営事業】

《目 的》

就学前児童とその保護者を対象に、子どもの人権尊重を基本に捉え、人と人とのつながりを通して様々なニーズに合わせた子育て支援を図ります。

《内 容》

子育て中の在宅の親子の居場所となり、子どもにとってはあそびの経験や他の子どもたちとの交流の場、保護者にとっては育児が孤立しないよう子育てについて話す場、他の保護者との交流・つながりの場、自分に合った子育てを学び合う場となるよう子育て支援を行います。

《主な事業内容》

I.乳幼児やその保護者が自由に遊べる場の提供（オープンスペース）

- ・オープンスペース
- ・年齢限定オープンスペース（0,1歳児）

II.乳幼児やその保護者の交流や学習の場の提供（プログラム）

- ・ベビーマッサージ（月1回）
※4月・5月・6月は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
- ・親子ふれあい遊び（年3回×2グループ）
※4月は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
- ・クリスマスを楽しもう！
※コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
- ・歯科衛生士のお話（年3回）
※5月は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
- ・1歳児集まれ！（年3回）
※6月は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
- ・幼稚園ってどんなところ?!（年1回）
- ・栄養士のお話（年2回）

III.子育てサークル活動の支援

IV.子育てに関する相談

V.他機関との連携

VI.子育てに関する情報の収集および提供

VII.多世代交流イベントについて

交流センターとのイベント

- ・七夕飾り・ひな飾り
- ※稲ふれあいセンター祭り・盆踊りは、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

ゆずの郷とのイベント

- ・コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

センターご利用者のボランティア活動・その他

- ・ふれあいマーケット
- ※絵本の読み聞かせ・からふるコンサートはコロナウイルス感染拡大防止のため、中止

【Ⅰ. オープンスペース】

1. 実施概要

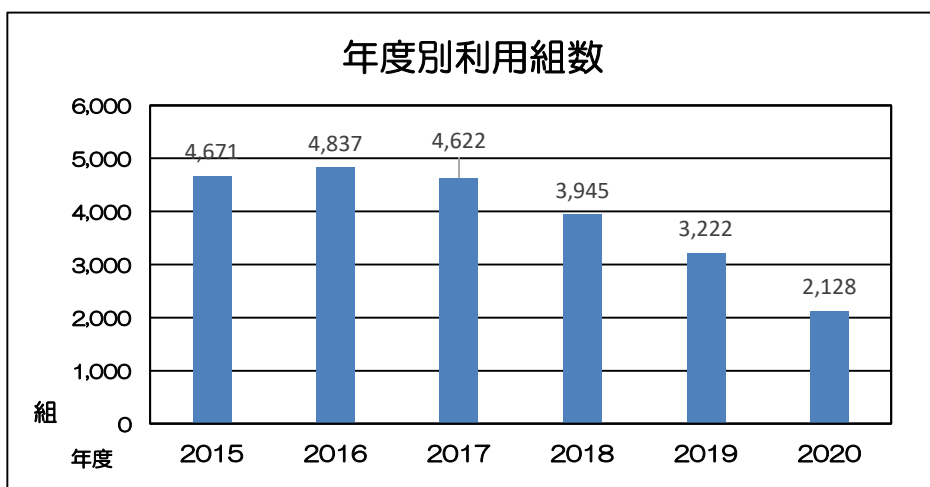
目的	核家族化・少子化・住環境の変化などにより家族関係や近隣関係が希薄になり、親同士が日常的に交流できる場や子供同士と一緒に遊ぶことのできる場が減少しています。これに伴い、育児不安や孤立した子育てが問題となる中、下記の目的の場を提供します。						
	・親子が安心して遊ぶことのできる場						
	・親子が他者と出会い・交流できる場						
	・出会った親子が交流を深め、互いに成長していける場						
	・子育てに対する知識をスタッフや他のご利用者から得る場						
実施日時	・子育て家庭の多様なニーズに応じた情報提供や相談に取り組みます						
	オープンスペース実施	月	火	水	木	金	土
	10：00～12：00	○	※	休業日	・子育てサークルデイ ・臨時オープンスペース	○	○
	12：00～13：00	換気・消毒タイム			換気・消毒タイム		
	13：00～16：00	○	○		※	○	○
内容	・親子で自由に遊ぶ						
	・午前、午後終了前に手遊びや親子ふれあい遊びの紹介・絵本の読み聞かせ・ペープサート・パネルシアターなど						
内容	・※印：プログラム、年齢限定、臨時オープンスペース等を開催						
	・コロナウイルス感染対応中はおべんとうひろばは中止とし、消毒・換気タイムとします						

2. 実施結果

《オープンスペース年間利用数》

年度別利用組数

	利用組数
2013年度	3,683組
2014年度	4,821組
2015年度	4,671組
2016年度	4,837組
2017年度	4,622組
2018年度	3,945組
2019年度	3,222組
2020年度	2,128組



考察	・今年度はコロナ感染拡大防止に伴う、緊急事態宣言発令により、4/4~6/7まで閉室となりました。6/8からの再開後、利用にあたっては、人数制限（14人）と時間制限（1時間）を設けると共に、ご利用者には、大人はマスク着用とし、検温や健康チェック、手洗い、手指消毒をしてから入室していただき、スタッフも健康管理に十分に留意し、マスク・ゴーグル着用、手指消毒をこまめに行うなど感染拡大防止に努めました。環境設定としては、高機能換気扇や空気清浄機を使用し、玩具類や備品の消毒、清掃、換気を徹底し、ご利用者が安心して利用できるよう努めました。コロナ禍の一年で制限もあったため、今年度のオープンスペースの利用者数は、前年度に比べ1,100人ほど減少しました。しかし、新規利用者数は全体の割合からみて、前年度は15.6%であり、今年度は16.9%と増加しています。コロナ禍で親子を支援する場所が減少したために、行き場のない方が増え、行き場を求める傾向が強いようです。また、ご利用者の楽しみの一つであるプログラムも7月から人数制限を設け再開しました。コロナ禍で不安のある中、「おひさまルームひじりが開いていて良かった」というご利用者の声は多く、身近な心のよりどころとしての役割を果たしていると考えます。
----	--